

全国で初めて条例による住民投票を実施し、原発建設計画を断念させた新潟県の旧・巻町（現・新潟市西蒲区）の元町長、笹口孝明さん（65）の講演会がこのほど、仙台市青葉区であった。笹口さんは「住民投票を行えば、主権在民の政治が実現できる」と集まった約70人に呼びかけた。

同町では1969年、東北電力による原発建設計画が明らかになった。土地取得難航などで計画は進まなかったが、94年の町長選で「原発推進」を掲げた候補者が当選すると、同町議会は原発建設特別委設置を採択した。「原発建設は町の重大事なのに、住民の意思が反映されていない」と考えた笹口さんら自営業者ら7人が「巻原発・住民投票を実行する会」を結成した。

同会が95年に独自の“住民投票”を実施すると、全有権者の約45%が投票に参加し、そのほとんどが原発反対の意思を明らかにした。しかし同町は計画を停止させなかったために、同会などがリコール運動を展開して町長は辞職。辞職に伴う町長選に出馬して当選した笹口さんは、改めて条例に基づいた住民投票を実施。反対1万2478票、賛成7094票の結果となり、原発計画を頓挫させた。

笹口さんは「当時の反対派も賛成派の住民も、今では融和している」と指摘。「福島第1原発事故を見ても、私たちの選択は正しかった。主権者である住民の選択は重視されるべきだ」と訴えた。

講演会は、同町の住民投票を描いた映画「渡されたバトン さよなら原発」を県内で上映させるため発足した「みやぎ上映実行委」が主催。同映画は25日～6月27日、仙台市青葉区中央2の桜井薬局セントラルホールで上映される。【竹田直人】